

平成31年3月3日（日） 平成30年度第11回発掘調査現地説明会資料

# 島名本田遺跡（しまなほんでんいせき）

所在 地：つくば市島名字薬師台1719番地ほか

調査期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日 調査面積：11,032m<sup>2</sup>

委託者：茨城県土浦土木事務所つくば支所

調査原因：島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業

調査機関：公益財団法人茨城県教育財団（つくば島名事務所）

TEL：029-225-6587 <http://www.ibaraki-maibun.org>

## 1 遺跡の立地

島名本田遺跡はつくば市の南西部に位置し、谷田川右岸の標高19～24mの台地上に立地しています。周辺には島名熊の山遺跡、島名中代遺跡、島名関ノ台南B遺跡、島名八幡前遺跡が所在しています。島名熊の山遺跡は古代鳴名郷の大規模集落跡として知られています。一方、島名本田遺跡の中心となる時代は、室町時代終わり頃から江戸時代の初め頃です。（当地は古代における繁栄だけでなく、室町時代にかけてもたくさんの人々が生活した痕跡が残り、古代鳴名郷のその後の歴史について多くを語ってくれます）

## 2 遺跡の概要

当遺跡の調査は今回で5回目となります。主な遺構は、室町時代から江戸時代にかけてのもので、溝で区画された内側に、掘立柱建物跡、方形堅穴遺構、井戸跡、地下式坑、整地遺構、ピット群などが確認されています。主な遺物は、土師質土器の小皿・内耳鍋・擂鉢・香炉、瓦質土器の火鉢や風炉をはじめ、陶磁器の甕・壺・碗・天目茶碗・皿、石製品の石鉢・茶臼・砥石・硯・五輪塔・宝篋印塔、木製品の臼・漆器椀・卒塔婆・杭などです。これらの多くの遺物は、溝跡や井戸跡などに投棄された状態で出土しています。木製品の臼や漆器椀などは、深い井戸や溝の底から発見しました。

## 3 調査の成果

今回の調査によって、室町時代から江戸時代にかけての多くの溝や井戸を伴った屋敷跡を確認しました。調査区の西部は標高が高く、墓や貯蔵施設と考えられる地下式坑が数多く構築されています。調査区の中央部から東部は緩やかな斜面部で、溝に囲まれた掘立柱建物跡や井戸跡、土坑などが群在しています。それらはそれぞれが関連し合って一定の居住空間などを構成していたと考えられます。

その中でも特に大規模な第91号溝跡は、昨年度の調査区から続いており、コの字状もしくは方形にめぐっていたと推測できます。何度も掘り替えられている痕跡から、長い期間にわたって機能していた区画溝と考えられます。この区画の内側から陶磁器片の出土が目立ち、茶道具である茶臼や風炉なども出土していることから、区画内は、下級武士もしくは富裕農民層の屋敷があったと推定できます。



島名本田遺跡と周辺の遺跡

（「茨城県デジタルマップ」に加筆）



石鉢が出土した第137号井戸跡



第91号溝跡から出土した天目茶碗

この資料は、調査中の情報であり、最終的な結果ではありません。引用・掲載はご遠慮願います。



奈良時代



第116号竪穴住居跡

壁隅部に竈が付設された特異な建物で、須恵器の壺などが出土しました。8世紀中葉の住居跡と考えられます。

室町時代



第20号地下式坑

竪坑部と主室をつなぐ部分の天井が確認できました。墓あるいは貯蔵施設と考えられます。

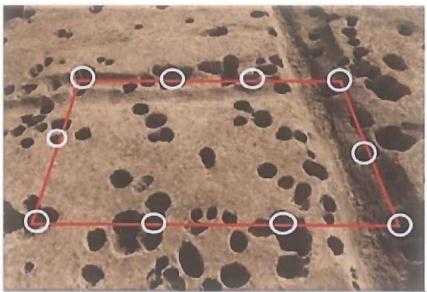
室町時代から江戸時代



第91号溝跡

鎌倉時代の古瀬戸の瓶子を再利用した容器です。貴重な品で長い期間にわたり伝世したと考えられます。

室町時代から江戸時代



第33号掘立柱建物跡

第91号溝跡で区画された内側で確認しました。3か所のピットで柱材を確認しました。



輪宝墨書土器

地鎮のために用いられたと考えられます。大日如来の種字が書かれています。

室町時代から江戸時代



第105号井戸跡

断ち割り調査で井戸の底から木製の臼が出土しました。何らかの理由で投棄されたものと考えられます。